

第3期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略 2024年度評価報告書作成方針

令和7年7月
神奈川県政策局自治振興部地域政策課

第3期総合戦略評価の考え方

1 第1期・第2期における評価方法の振り返り

評価の方針（第1期・第2期共通）

- ・「小柱」の単位で県事業部局による一次評価を実施
- ・「基本目標」の単位で神奈川県地方創生推進会議による二次評価を実施

■県事業部局による一次評価の方法【小柱ごとに実施】

<第1期（計画期間：2015～2019）>

- ア 主な取組ごとの具体的な取組結果
- イ K P I 達成状況
- ウ 今後の課題と対応方向



総合分析（進捗状況の4段階評価）

<第2期（計画期間：2020～2023）>

- ア 主な取組ごとの具体的な取組結果
- イ K P I 達成状況
- ウ 今後の取組の方向性

※新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえ4段階評価は実施せず

■地方創生推進会議による二次評価の方法【基本目標ごとに実施】

<第1期（計画期間：2015～2019）>

- ア 4段階評価
- イ 今後の取組に向けた意見

<第2期（計画期間：2020～2023）>

- ・コロナ禍における県の取組
 - ・Withコロナでの県の今後の取組
- に向けた総合的な意見

※新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえ4段階評価は実施せず

2 第3期総合戦略評価の評価方法

評価報告書（素案）で
お示ししている内容

地方創生推進会議（本日の会議）で
ご議論いただく内容

	一次評価	二次評価
評価主体	県事業部局	地方創生推進会議
評価単位	小柱ごと	基本目標（大柱）ごと
評価項目	● 主な取組ごとの具体的な取組結果 ➢ 取組結果 ➢ 今後の取組に向けた課題と方向性 ● K P I 達成状況 ➢ K P I 実績値 ➢ K P I 達成率を基にした4段階での進捗状況	● 4段階評価 （小柱ごとの一次評価や数値目標の達成状況、施策の進捗状況から総合的に判断（定性的な評価）） ● 今後の取組に向けた意見
評価報告書への反映	● 小柱ごとに ① 主な取組ごとの具体的な取組結果 ② K P I 達成状況（実績値と達成率を基にした4段階の進捗状況）を掲載	● 基本目標ごとに4段階評価と今後の取組に向けた意見を掲載 ● 2024年度全体の所見や評価を「神奈川県地方創生推進会議の評価」に掲載

3 具体的な二次評価の方法（本日のご議論の視点）

■ 4 段階評価

- 県による一次評価の結果を踏まえながら、基本目標ごとの評価指標（数値目標）の達成状況や基本目標全体に対する施策の進捗状況を総合的に評価（定性的な評価）して**4 段階評価**を実施

< 4 段階評価の区分 >

評価の区分	評価の考え方
順調に進んでいます	基本目標達成に向けた取組の <u>進捗状況が順調である</u> と判断できる場合
概ね順調に進んでいます	基本目標達成に向けた取組の <u>進捗状況が概ね順調である</u> と判断できる場合
やや遅れています	基本目標達成に向けた取組の <u>進捗状況がやや遅れている</u> と判断できる場合
遅れています	基本目標達成に向けた取組の <u>進捗状況が遅れている</u> と判断できる場合

■ 今後の取組に向けての議論

- 4 段階評価に加え、基本目標の達成に向けて、今後の県の取組（今後も進めていくべき取組や改善が必要な取組など）に関する議論
- 総合戦略全体（今後も継続していくべき取組の視点や現在の総合戦略に不足している視点など）に関する議論

【参考】第2期評価方法と第3期評価方法案の相違点

【県事業部局による一次評価】

■評価の単位

■評価項目

<第2期評価>

小柱ごと

ア 主な取組ごとの具体的な取組結果

- ・ 予定通り進捗した取組
- ・ 一部予定通りに進捗しなかった取組
- ・ 実施できなかった取組

イ K P I 達成状況

ウ 今後の取組の方向性

「実施できなかった取組」などは課題としてまとめ、「今後の取組の方向性」と合わせて記載

<第3期評価案>

小柱ごと

ア 主な取組ごとの具体的な取組結果

- ・ **取組結果**
- ・ **今後の取組に向けた課題と方向性**

イ K P I 達成状況

- ・ **K P I 実績値**
- ・ **K P I 達成率を基にした進捗状況（4段階）**

K P I 達成状況を踏まえた4段階での進捗状況を記載

【地方創生推進会議による二次評価】

■評価の単位

■評価項目

<第2期評価>

基本目標ごと

○ 地方創生推進会議からの意見

- ・ コロナ禍における県の取組
- ・ Withコロナでの県の今後の取組

に向けた総合的な意見

これまでの「地方創生推進会議からの意見」は「今後の取組に向けた意見」として記載

<第3期評価案>

基本目標ごと

ア 基本目標の4段階評価

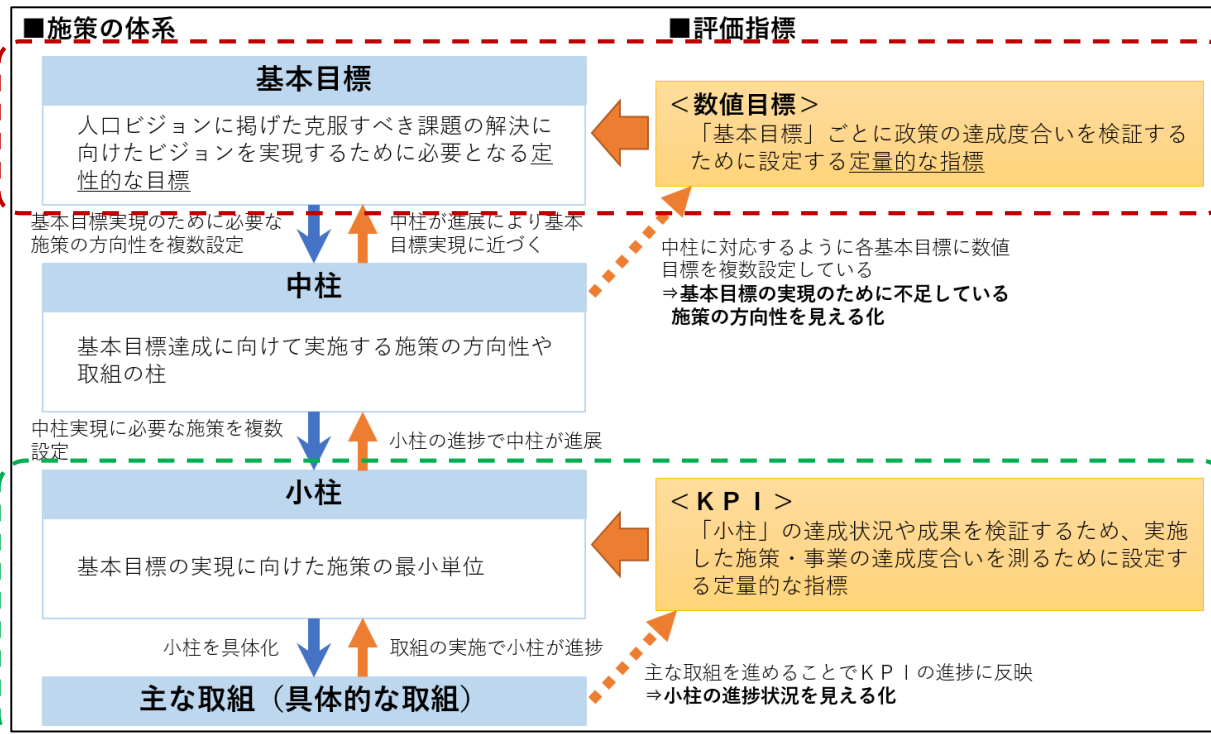
- ・ **4段階評価**
- ・ **評価根拠**
(優れている点、進捗が芳しくない点など)

イ 今後の取組に向けた意見

一次評価も参考にしつつ4段階評価を実施

【参考】施策体系（ロジックモデル）と一次評価・二次評価の関係

【施策体系（ロジックモデル）】



【評価の視点】

《基本目標・数値目標》
⇒ 総合戦略全体の進捗状況を把握

全体的な視点で不足する施策などを把握

地方創生推進会議による二次評価

二次評価の参考

評価の妥当性・客観性の担保

《小柱・主な取組・KPI》
⇒ 事業の取組結果のふりかえり・評価

個々の具体的な取組の課題などを客観的に把握

事業部局による一次評価

2024年度評価報告書

- ・ 全体構成
- ・ 一次評価・二次評価の反映イメージ

4 第3期総合戦略2024年度評価報告書 全体構成

■2020-23年度評価報告書

1 評価の概要

- これまでの地方創生の流れ
- 第2期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要
- 評価方法
- 新型コロナウイルス感染症による影響
- 凡例

社会環境の変化を踏まえ項目削除

2 具体的な施策の評価

- 神奈川県地方創生推進会議の評価
- 基本目標ごとの評価
- 小柱ごとの評価
- K P I 達成状況のまとめ

初年度の評価であることから項目削除

3 地方創生に関する市町村との連携推進

■2024年度評価報告書（素案）

1 評価の概要

- 神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要
- 評価方法
- 凡例

項目を統合

2 具体的な施策の評価

- 神奈川県地方創生推進会議の評価
- 基本目標ごとの評価
- 小柱ごとの評価

一次評価・二次評価は上記3か所に反映

3 地方創生に関する市町村との連携推進

5 「神奈川県地方創生推進会議の評価」 記載イメージ【素案P.●】

<記載方針>

評価部会や地方創生推進会議での総合戦略全体の進捗状況に係る評価（二次評価）や意見を記載

■記載内容

神奈川県地方創生推進会議の評価

- 総合戦略推進評価部会、第1回地方創生推進会議における総合戦略全体の進捗状況に係る評価や意見を記載

■第2期評価報告書からの変更点

（第2期評価報告書から変更なし）

本日も議論いただく
内容①

▼報告書イメージ

（2020-23年度評価報告書抜粋）

神奈川県地方創生推進会議の評価

- 昨年度は、新たに第3期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するため、計画期間初年度である2020年度から2022年度までの3年間の総括的な評価を行い、「2020-22年度評価報告書」が取りまとめられました。
これをもとに、今年度は、2023年度の実績結果を踏まえ、第2期の計画期間（2020年度から2023年度）全体の総括的な評価を行いました。
- 第2期計画期間は、新型コロナウイルス感染症の影響をはじめ、物価上昇や雇用情勢、インバウンドの増加、気候変動など、計画策定時に想定し得ない社会状況の大きな変化が多く、計画の推進に当たって非常に難しい状況でした。そのような中で、デジタルを活用して事業実施の機会を確保するなど、工夫をしながら取組を進めており、地方創生の推進に一定の成果を上げたものと評価します。
- 今後、地方創生の取組を進めるに当たり、4年間の取組を振り返り、工夫や改善を図るべき事項について、4つの基本目標ごとに指摘しました。
- また、全体を通じては、昨年度指摘した事項に加え、2023年度の社会状況を踏まえると、次の点についても留意する必要があります。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響が収束した後に、元通りになったもの、全く変化してしまったものなど、コロナ禍前後でどのような変化があったのかを見ていくことは、非常に重要な観点であること
 - ・ 今後の施策を検討する際には、急速に社会状況が変化し、これまでとは異なるフェーズに入ってきたことを考慮し、社会環境の大きな変化を転機と捉えながら、硬直的なものではなく、現場のニーズを取り込みながら進めていく必要があること
- 神奈川県も人口減少局面に入り、人口減少と超高齢化社会への対応がより一層求められますので、今後も、地方創生推進会議からの意見を踏まえ、デジタルの力も活用しながら、新たに策定した第3期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組を着実に推進していくことが望まれます。

6 「基本目標ごとの評価」 記載イメージ【素案P.●】

基本目標ごとに、地方創生推進会議による二次評価の結果と数値目標の達成状況をまとめる

■記載内容

□ 基本目標と基本目標のねらい ア

- 第3期評価報告書から転記

□ 基本目標の体系図 イ

- 中柱・小柱の体系図（概要版から転記）

□ 神奈川県地方創生推進会議による二次評価 ウ

- 総合戦略推進評価部会及び第1回地方創生推進会議の議論をまとめ、次の内容を記載
 - ✓ 4段階評価
 - ✓ 4段階評価の理由（評価根拠）
 - ✓ 今後の取組に向けた意見

本日も議論いただく
内容②

□ 数値目標と2024年度までの実績値 エ

- 数値目標の目標値・実績値と実績値推移のグラフ

■第2期評価報告書からの変更点

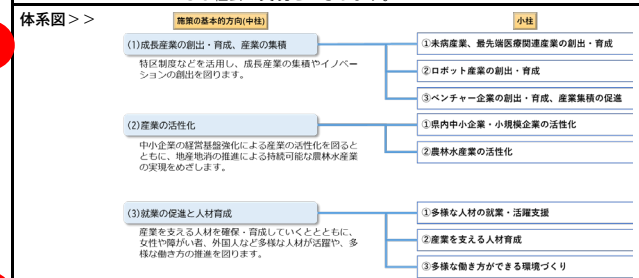
- 地方創生推進会議による4段階評価を追加
- 基本目標ごとの総括や新型コロナウイルス感染症の影響は廃止

▼報告書イメージ

（記載内容はサンプルであり実際のもものと異なります。）

基本目標1 神奈川の成長力を生かして魅力的なしごとを産み出し、一人ひとりが生き生きと働ける社会を創る

ねらい>> 神奈川の成長力を生かした神奈川らしい成長産業の創出などに取り組むことにより、県内に魅力的なしごとの場をつくり、安定した雇用を生み出し、多様な人材が活躍して、多様で柔軟な働き方で一人ひとりが生き生きと働くことができる社会の実現をめざします。



神奈川県地方創生推進会議による二次評価

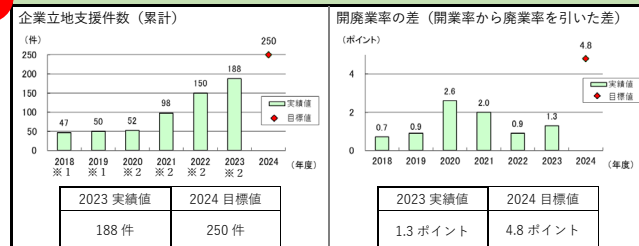
【評価】概ね順調に進んでいます

- 〇 …といったところは優れています。
- 〇 …といったところは、…と判断できることから、概ね順調に進んでいると評価します。

【今後の取組に向けた意見】

- 〇 …といったところは、…と思われます。
- 〇 …は、必要な取組と思われるので、引き続き…しながら、取り組む必要があります。
- 〇 …について、今後、…とする必要があります。

数値目標と2024年度までの実績値



※1 2019年度以前の実績値は単年度の件数
※2 2020年度以降の実績値は2020年度からの累計の件数

企業経営の未病が改善した企業の割合（「未病」完全失業率（暦年）

7 「小柱ごとの評価」 記載イメージ

小柱ごとに、県の一次評価として、取組結果と今後の課題と方向性、K P I 進捗状況（K P I 実績値及び K P I 達成率を基にした進捗状況）を記載

■記載内容

□ 2024年度取組結果と今後の課題と方向性

- 2024年度取組結果
- 2025年度以降取組にあたっての課題と方向性

ア

□ K P I 進捗状況

- K P I 実績値
- K P I 達成率を基にした進捗状況

イ

ウ

■第2期評価報告書からの変更点

- 取組結果の実績値は評価報告書の対象期間の実績のみ記載
- 定性的な評価を充実させるため、「今後の課題と方向性」を小柱ごとの記載から、主な取組ごとの記載に見直し
- K P I の進捗状況を分かりやすく示すため、K P I 達成率を基にした進捗状況を4段階で記載

▼報告書イメージ

(記載内容はサンプルであり実際のもものと異なります。)

(3)移住・定住の促進

①移住の促進

【2024年度取組結果と今後の課題と方向性】

県内各地域の魅力発信

(取組結果)

- 県内各地の魅力や、移住者と地域の方との交流を紹介する動画などを活用した移住促進プロモーションを実施【PR映像の視聴数 249,502回(2023)】<地方創生関係交付金活用>
- 県内市町村が移住・定住に取り組む中で直面する課題に応じて、専門的な知識や経験を有する民間人材を派遣【派遣市町村数 9市町(2023)】<地方創生関係交付金活用>

(今後の取組に向けた課題と方向性)

- テレワーク体験を通じて移住先としての神奈川に関心をもってもらうため、都心の働く世代向けに、テレワーク拠点と地域の自然や暮らしの魅力をウェブサイトなどで発信

○移住希望者への相談・支援

(取組結果)

- …を実施【〇〇件数●件(2024)】<企業版ふるさと納税活用>

(今後の取組に向けた課題と方向性)

- …に関しては、…であったことから、…をさらに改善するため、…を実施

○市町村の移住促進の取組への支援

(取組結果)

- …を実施【〇〇件数●件(2024)】

(今後の取組に向けた課題と方向性)

- …に関しては、…であったことから、…をさらに改善するため、…を実施

【K P I 進捗状況】

KPI (重要業績評価指標)		2022	2023	2024	2025	2026	2027
		目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率
移住・定住関連ウェブサイトへのページビュー数(累計)	目標値			400,000PV	500,000PV	600,000PV	700,000PV
	実績値	200,162PV	300,000PV	380,000PV	—	—	—
	達成率			95.0%	—	—	—
県や市町村の相談を経由して移住した人数	目標値			227人	232人	237人	242人
	実績値	222人	223人	233人	—	—	—
	達成率			102.6%	—	—	—

【KPI達成率を基にした進捗状況】

順調に進んでいます

7 「小柱ごとの評価」 記載イメージ（つづき）

■ K P I 達成率を基にした進捗状況の判断基準

- 判断基準などは「新かながわグランドデザイン 評価報告書2024」に準拠し、次のとおり設定

4段階の区分	判断基準
順調に進んでいます	小柱の K P I 達成率の平均値が90%以上
概ね順調に進んでいます	小柱の K P I 達成率の平均値が75%以上、90%未満
やや遅れています	小柱の K P I 達成率の平均値が60%以上、75%未満
遅れています	小柱の K P I 達成率の平均値が60%未満

< 小柱の K P I 達成率平均値の求め方 >

$$\text{K P I 達成率平均値} = ([\text{各 K P I の達成率の和}] \div [\text{達成率を算出した K P I 数}]) \times 100$$

※ K P I 達成率が100.0%以上の場合は100.0%、マイナスの値の場合は0.0%として計算

< K P I 達成率の求め方 >

① K P I の数値設定が〔単年度〕

評価年度の目標値に対する実績値の割合

$$\text{達成率} = ([\text{実績値}] \div [\text{目標値}]) \times 100$$

② K P I の数値設定が〔累計〕〔総計〕

評価対象年度中の増加分（変化率）をもとに算出

$$\text{達成率} = (([\text{実績値}] - [\text{前年度実績値}]) \div ([\text{目標値}] - [\text{前年度目標値}])) \times 100$$

③ 削減方向に目標値を設定している K P I

ア 目標値に0が設定

現状値からの削減量をもとに算出

$$\text{達成率} = (([\text{前年度実績}] - [\text{実績値}]) \div ([\text{前年度実績}] - [\text{目標値}])) \times 100$$

イ 目標値に0が設定されていない

評価年度の実績値に対する目標値の割合

$$\text{達成率} = ([\text{目標値}] \div [\text{実績値}]) \times 100$$